

会 報

平成12年度第3回日本公衆衛生学会理事会議事要旨

I 日 時 平成12年10月17日(火)11:00~12:40

II 場 所 グリーンドーム前橋 101会議室

III 出席者 学会長 鈴木庄亮
 理事長 多田羅浩三
 理 事 阿彦忠之 岩尾總一郎
 小倉敬一 金川克子
 北川定謙 木根洸英雄
 小林廉毅 小林秀資
 近藤健文 嶋本 喬
 伊達ちぐさ 田中平三
 中川秀昭 能勢隆之
 二塚 信 松田 朗
 三浦宜彦 宮武光吉(20名)
 監 事 古市圭治 平山朝子(2名)

委任状提出者

副会長 家崎 智 岡 英夫
 林 弘二
 理 事 相澤好治 後藤 武
 佐柳 進 角田文男
 鳥山 皓(8名)

以上 理事現在数28名 出席理事20名
 委任状提出理事8名

オブザーバー

次期学会長 實成文彦(香川医科大学人間環境
 医学講座衛生学公衆衛
 生学教授)

福永一郎(香川医科大学人間環境
 医学講座衛生学公衆衛
 生学助教授)

平尾智宏(香川医科大学人間環境
 医学講座衛生学公衆衛
 生学助手)

吉岡マサ子(埼玉県健康福祉部健
 康福祉政策課副参事)

学会規定12条1項による定数に達したので、多田羅浩三理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち理事長から挨拶があった。

議事録署名人名人選出

議事録署名人名に、阿彦忠之、近藤健文両理事が

指名され了承された。

議 事

第1号議案 第59回(平成12年度)日本公衆衛生学会総会について

鈴木庄亮学会長から今回の総会への歓迎とお礼の挨拶の後、明日から開催される総会行事等について説明があった。また、総会運営について各理事に協力をお願いしたい旨の依頼があった。

以上により、本議案は了承された。

第2号議案 第60回(平成13年度)日本公衆衛生学会総会について

實成文彦次期学会長から資料に基づき、次の説明があった。

メインテーマは「21世紀の社会と公衆衛生」とし、59回総会終了後第1回実行委員会を開催する予定である。一般発表の示説と口演の割合は6対4を考慮しており、第60回の記念事業として、会場一角に記念ブースを設け大学、自治体等の出展を募るほか、メインテーマに関して学会員等に意識調査を行うとともに、「社会における公衆衛生学の使命と学会の役割」(仮題)に関するパネルディスカッションを行う計画である。

以上により、本議案は了承された。

第3号議案 第61回(平成14年度)日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から第61回日本公衆衛生学会総会学会長を埼玉県立大学長の北川定謙先生にお願いし、埼玉県大宮市で開催することは、前回理事会で了承されたので、本日午後開催の評議員会、明日開催の総会に諮る旨の提案があり、了承された。

また、北川理事から学会の開催時期は10月23日から25日、場所は大宮ソニックシティ等を予定しており、埼玉県立大学の柳川先生、三浦先生と協力しながら進めたい旨説明があった。

以上により、本議案は了承された。

第4号議案 委員会について

多田羅理事長から前回の理事会で理事長、二塚委員長に一任された「公衆衛生看護のあり方検討委員会」については、金川克子理事、平山朝子監事と相談の上、委員構成は委員長に金川克子(石川県立看護大学)、委員に池田信子(秋田市民生活部)、潮見重毅(栃木県北健康福祉センター)、鈴木 晃(国立公衆衛生院)、古谷章恵(日

本看護協会保健婦職能理事), 平野かよ子(国立公衆衛生院), 平山朝子(岐阜県立看護大学), 山崎京子(神奈川県立衛生短期大学)の諸氏とする旨説明がなされ, 本議案は了承された。

第5号議案 評議員会および総会議事について
近藤理事から資料に基づき, 評議員会の進行と総会議事の確認が行われ, 原案どおり了承された。

第6号議案 その他

1. 多田羅理事長から国立公衆衛生院院長より「国立公衆衛生院専門課程分割後期(応用)終了認定委員会」の委員を本学会から推薦いただくよう依頼があり, 公衆衛生人材委員会において検討した結果, 小林廉毅理事にお願いしたい旨提案があり, 了承された。

2. 理事長から調査活動費の中に委員会費用とは別枠にて欧米の公衆衛生教育の視察のための旅費を計上できないか提案があった。宮武光吉会計担当理事から予算措置については, 支出が可能かどうか今年度の収支の状態によって検討したい旨発言があった。また, 二塚理事から医学教育のコアカリキュラムの点からも必要ではないかという意見, 鈴木学会長からは文部省でのコアカリキュラムの検討状況について, 補足説明があった。

この件に関しては, 今後さらに検討することとした。

3. 北川理事から前回の理事会で問題とされた名誉会員の選出要件について検討したが, 公衆衛生に貢献した人々をできるだけリストアップしていきたいので, 原則として評議員より各職種から幅広く推薦を頂きたい旨説明があった。

以上により, 本議案は了承された。

4. 中川秀昭理事から個人情報保護基本法制に関する大綱とそれについての見解の説明があった。田中平三理事から, 日本学術会議の予防医学研究連絡委員会でも個人情報保護基本法制について検討しており, 同委員会の委員には本学会の相澤理事にお願いしており, 今後, ガイドライン等を作成するためにも関係学会共通の認識を持つ必要があるとの発言があった。

報告事項

1 委員会報告

1) 編集委員会報告

嶋本理事から評議員会における編集委員会報

告事項の確認と明日の拡大編集委員会の開催について報告があった。また, 機関誌47巻8号に掲載の大阪府立成人病センターの大島明氏執筆の会員の声の中で, 「マスコミで取り上げられた事例に関して事実関係を調査し, 国内外のガイドラインに照らして判断することを, 本学会に要請している件」については, 地域保健委員会で検討することとした。

2) 地域保健委員会報告

阿彦忠之委員長から, 委員会でまとめた「健康日本21の地方計画で留意すべき健康指標と情報収集の方法について」を, 各都道府県, 指定都市に参考資料として送付した旨報告があった。

3) 公衆衛生人材委員会報告

二塚委員長から資料に基づき, 第2回公衆衛生人材委員会において検討を行った公衆衛生専門職に必要とされる資質等については, 今総会のシンポジウムで発表する予定であり, 従来の検討事項の他に公衆衛生栄養士についても検討している旨報告があった。

2 その他

1) 近藤理事から平成12年度の中富健康科学振興財団の顕彰に, 福岡大学名誉教授の重松峻夫先生を推薦した旨報告があった。

2) 近藤理事から次の団体の後援名義の使用について許可した旨報告があった。

全国医療情報システム連絡協議会 県民公開講座(埼玉県医師会)

第6回地球環境汚染物質としての水銀に関する国際会議(同会議組織委員会)

3) 多田羅理事長から医学書院発行公衆衛生第64巻7号「大学の公衆衛生」について説明があった。

4) 近藤理事から日本学術会議予防医学研究連絡委員会報告について説明があった。

以上で議事を終了し, 多田羅理事長が閉会を宣した。

3 次回理事会は平成13年1月23日(火)1時半から東京厚生年金会館で行う。

平成12年度第2回公衆衛生人材委員会議事要旨

日時 平成12年8月30日(水)13:00~14:00

場所 勲日本公衆衛生協会会議室

出席者 二塚 信(委員長), 多田羅浩三(理事)

長), 小倉敬一, 能勢隆之, 伊達ちぐさ, 松谷有希雄, 川口 毅, 上畑鉄之丞, 平野かよ子

二塚委員長からあいさつと懸案の公衆衛生看護委員会(仮称)は10月をめどに立ち上げることの説明があった。本委員会は来年10月が期限であるのでそれまでに委員会報告をまとめるために, 来年5月までには各委員担当分のまとめを行うことを確認した。

川口委員から資料に基づき9月9日の開催卒後研修に関する衛生・公衆衛生学教育協議会ワークショップについての説明があった。

1 公衆衛生専門職に必要とされる資質について

委員からかなりの修正希望が出され, 環境保健についての事項を1項追加が上畑委員から出され, 文案について委員長に提出することとなった。さらに委員長が検討して次回委員会に提出することとした。

2 日本における公衆衛生大学院について

公衆衛生学会としてのスタンスは医学部教育の中に公衆衛生教育を残すことで, 「医学教育における公衆衛生教育」について10月開催予定の衛生・公衆衛生学教育協議会の検討状況も勘案し, 能勢委員が整理, 委員長と相談することとした。

3 卒後研修について

平成16年実施の卒後臨床研修(2年臨床研修コース)について衛生・公衆衛生学教育協議会の対応について川口委員から説明があり, 松谷委員から補足説明があった。

4 栄養士について

資料に基づき伊達委員が説明。

日本栄養士会の「公衆栄養士」等新しく検討された問題等について, 今後の検討も併せて本委員会で検討を続けることとした。

5 公衆衛生看護のあり方検討委員会について

今までの検討状況, 現在の状況等について平野委員から説明があり, 公衆衛生看護のあり方委員会として10月までにメンバーを選考し, 立ち上げることとした。

6 国立公衆衛生院の研修について

上畑委員から公衆衛生院の保健所長コースの後期を行う単位認定について学会から1人委員を出してほしい旨の依頼があり, 学会時の理事会で決めることとした。

メンバー 院長外2人, 地域保健・健康増進栄養課長, 厚生科学課長, 保健所長会代表, 学会代表1人

平成12年度日本公衆衛生学会評議員会議事要旨

1. 日 時 平成12年10月17日(火)13:00~14:00
2. 場 所 グリーンドーム前橋 102号室
3. 出席者82人 委任状提出者128人 合計210人
(現在員数 260人)

事務局から学会規定第15条2項による定足数に達した旨の報告と, 傍聴希望者として香川医科大学人間環境医学講座衛生学公衆衛生学の福永一郎助教授, 同じく平尾智宏助手, 埼玉県健康福祉部健康福祉政策課の吉岡マサ子副参事の紹介があった後, 鈴木庄亮学会長が議長となり開会を宣言した。議事に先立ち鈴木学会長から歓迎の挨拶と, 多田羅浩三理事長から挨拶があった。

議事録署名人には, 伊達ちぐさ評議員と中村好一評議員が指名された。

報告事項

1. 平成11年度会務報告

近藤健文庶務担当理事から資料に基づき, 学会庶務に関する事項, 学会総会, 奨励事業, 学会機関誌発行等の事業全般について報告があった。

2. 委員会報告

1) 編集委員会報告

嶋本 喬編集担当理事から次のとおり報告があった。

編集委員会は毎月1回開催し, 機関誌も順調に発行している。平成11年度の投稿原稿数は134編であり, 投稿数は昨年より若干減少しているが, 全体としては変わらない状態である。その処理状況は, 前年度以前の投稿分をふくめて採用90編, 不採用30編, 審査継続中82編となっている。投稿から掲載までの期間は, 平成10年度9.5カ月であったが, 11年度は11.4カ月になり期間が延びている。今後, 期間の短縮に努めたい。

2) 地域保健と人材委員会報告

近藤委員長から次のとおり報告があった。

平成11年度は委員会を3回開催したが, 昨年11月19日開催の理事会において「地域保健委員会」と「公衆衛生人材委員会」の2つの委員会に分割して設置することとなった。

3) 感染症対策委員会

角田文男委員長欠席のため近藤理事から次のとおり報告があった。

平成11年度は委員会を2回開催し、これまでの委員会活動をまとめ、機関誌47巻5号に掲載した。

4) 公衆衛生人材委員会

二塚 信委員長から次のとおり報告があった。

平成11年度は委員会を2回開催し、「公衆衛生大学院構想について」、「公衆衛生専門職に必要とされる資質について」、「医師の卒後研修における公衆衛生の必須科目について」、「公衆衛生看護職と栄養士の教育について」等を検討した。

5) 地域保健委員会

阿彦忠之委員長から次のとおり報告があった。

平成11年度は委員会を2回開催している。「健康日本21について」、「個人情報保護システムのあり方について」、「放射能臨界事故に際しての危機管理について」、「喫煙対策に関する意見声明について」等を検討した。

3. その他

1) 中富健康科学振興財団の顕彰について

近藤理事より中富健康科学振興財団から平成11年度健康科学の発展に功績のあった研究者として館 正知氏が顕彰された旨報告があった。

2) 奨励事業について

鈴木学会長から平成12年度の奨励事業について次のとおり報告があった。

奨励賞候補者は評議員の推薦が必要要件であり、奨励事業は学会としても力を入れている。平成12年度は、7人の理事により構成されている奨励賞選考委員会において、5人の候補者について厳正に審査した結果、津久井 智氏、三徳和子氏、長田 斉氏、麻原きよみ氏の4人を選考した。明日開催の学会総会において奨励賞を贈呈し、業績の発表を行っていただく予定である。

議 事

第1号議案 平成11年度収入支出決算(案)について

第2号議案 第10回役員選挙費用決算(案)について

議長から第1号議案と第2号議案を一括審議したい旨発言があり、宮武光吉会計担当理事から、資料に基づき平成11年度収入支出決算(案)について次のとおり説明があった。

1. 収入については、前年度の未納の会費は10年度より少ないが、予算額よりは収入増となっている。会誌掲載料収入、会誌投稿料収入、会誌広告料収入、雑誌販売収入、雑収入が増額している

2. 支出については資料のとおりであるが、次期繰越収支差額は、平成12年度へ全額繰り越したい。

ひきつづき、宮武理事から、第10回役員選挙費用決算(案)について資料に基づき次のとおり説明があった。

第10回役員選挙の登録者が少なかったため、決算額が予算額に比べかなり少なくなっている。次回役員選挙費用は選挙費用積立預金で十分対応できるので、平成12年度13年度は選挙費用積立預金支出は行わないこととする。

古市圭治監事から平成11年度収入支出決算と第10回役員選挙費用決算に係る監査報告がなされた後、本件について審議した結果原案どおり承認されたので、その内容を機関誌に掲載することとした。

第3号議案 平成12年度収入支出補正予算(案)および平成13年度収入支出予算(案)ならびに平成13年度事業計画(案)について

宮武理事から、資料に基づき平成12年度収入支出補正予算(案)および平成13年度収入支出予算(案)について次のとおり説明があった。

1. 平成12年度収入支出補正予算(案)について、収入の部では前年度からの繰越金を繰り入れ、そのため支出の部の次期繰越差額は前年度からの繰越金と同額にすることとした。

2. 平成13年度収入支出予算(案)としては支出の部で管理費を若干増加させるほか、事業計画にある会員名簿作成費、調査活動費を増額し、また、第60回総会の記念事業費として100万円増額することとした。

近藤理事から資料に基づき、平成13年度の事業計画(案)として諸会議、第60回学会総会、奨励事業、会誌の発行、委員会等について説明があった。

以上の説明の後、審議の結果原案どおり承認された。

第4号議案 名誉会員の推薦について

北川理事から、理事会で承認された次の5人を

名誉会員に推薦したい旨の提案があり承認され、明日開催の総会に諮ることになった。

岡田 晃氏, 前田和甫氏, 三浦 創氏, 伊藤秀夫氏, 松崎奈々子氏

第5号議案 第61回(平成14年度)日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から、平成14年度の第61回学会総会は北川定謙埼玉県立大学学長に学会長をお願いし、埼玉県大宮市(さいたま市)において開催したい旨提案があり、承認され、明日開催の総会に諮ることとなった。

第6号議案 その他

1. 岐阜大学医学部公衆衛生学の清水弘之評議員から、東海地方の公衆衛生学会を例に地方会と本学会との関係および他の地方会における活動について、質問があった。

また、東北大学医学部環境保健医学の佐藤 洋評議員から、東北地方会は発足当時から独自の活動をしている旨紹介があった。

これに対し、多田羅理事長から、地方会のあり方については今後理事会等で検討したい旨回答がなされた。

2. 久留米大学医学部衛生学公衆衛生学の福田勝洋評議員から、昨年の評議員会で発言した禁煙について、評議員の意見を取り入れ学会として声明等を出し積極的に活動したことについて、お礼の発言があった。

以上で議事を終り、實成文彦次期学会長、および次々期学会長(予定)北川定謙埼玉県立大学学長から挨拶があった後、議長が閉会を宣した。

平成12年度日本公衆衛生学会総会議事要旨

I. 日 時 平成12年10月18日(水)10:30~10:50

II. 場 所 グリーンドーム前橋

学会規定第19条により鈴木庄亮学会長が議長となり開会を宣した。

総会議事に先立ち多田羅浩三理事長から、鈴木学会長をはじめ群馬県関係者に対する謝辞を含めた挨拶があったのち、議事に入った。

III. 議 事

会務報告

近藤健文庶務担当理事から、平成11年度の学会

会員、名誉会員、役員会等の庶務に関する事項についての報告、会誌の発行状況、平成11年度の収支決算について一括報告がなされ、収支決算については会誌に掲載する旨の報告があった。

古市圭治監事から監査報告があった。

引き続き、近藤理事から昨日の評議員会で承認された平成13年度事業計画、平成12年度収入支出補正予算、平成13年度収入支出予算について報告があった。

第1号議案 名誉会員の推薦について

多田羅理事長から、学会規定に基づく名誉会員の推薦内規をもとに選考された次の5名の方々について、略歴を紹介のうえ名誉会員に推薦したい旨提案があり、満場一致で承認された。

岡田 晃氏 金沢経済大学長

前田 和甫氏 東京大学名誉教授

三浦 創氏 熊本大学名誉教授

伊藤 秀夫氏 大分県地域保健支援センター参与

松崎奈々子氏 元東京都新宿区四谷保健所長

第2号議案 第61回(平成14年)日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から、来年の学会総会は平成13年10月31日、11月1日、2日の3日間、實成文彦香川医科大学教授に学会長をお願いして開催することとなっており、一任されていた副会長には、形見重男香川県医師会会長、木幡 浩香川県健康福祉部長、中村 靖香川県生活環境部長に就任いただいた旨報告があった。また平成14年の第61回学会総会については、昨日の評議員会において審議された結果、学会長は北川定謙埼玉県立大学学長をお願いし、埼玉県大宮市(さいたま市)において開催したい旨提案がなされ、満場一致で承認された。なお、副学会長については学会長ならびに理事会に一任された。

以上で総会の審議を終了し、實成次期学会長と北川次々期学会長から挨拶があった後、議長が閉会を宣した。